

### 極早生温州「肥のあかり」の枝梢形態と刺発生

「肥のあかり」の刺は枝梢基部より先端部で消失しやすい。このため、未結果期の枝梢管理は、強剪定は行わず、間引き剪定や芽かきにより枝梢を長く伸長させることにより刺を少なくすることができる。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室(担当者:坂西 英)

#### 研究のねらい

「肥のあかり」は、成熟樹齢に達して、まだ年数が浅いため、枝梢に刺を有する樹が多くみられ栽培管理上支障となっている。そこで春梢と夏梢の刺の有無と翌年枝梢の刺発生との関係を明らかにし、刺発生を少なくするための方法を検討する。

#### 研究の成果

1. 春梢無刺タイプのうち夏梢を有する枝梢(c区)は、翌年の春梢、夏梢とも無刺本数割合が高く、刺の発生率も低い。また、夏梢を有しない枝梢(e区)も同様な傾向であるが、翌年の春梢、夏梢の発生本数が少なく明確とはいえない(表1)。
2. 春梢有刺タイプのうち夏梢を有する枝梢(a,b区)は、春梢無刺タイプに比べ、翌年の春梢の無刺本数割合は低いが、夏梢無刺本数割合は同程度であり、刺の有無では夏梢無刺タイプが高く、また、刺発生率もやや低い。一方、夏梢を有しない春梢(d区)は、翌年の無刺本数割合は春梢で高く、発生本数が少ないため明確ではないが、夏梢では低い傾向にある(表1)。
3. 春梢有刺で夏梢無刺の枝梢を樹冠上部と下部に区分し、夏梢を穂木として苗木を養成すると、樹冠上部を穂木とした方が、夏梢で無刺本数割合が高い。また、刺の発生が少ないと考えられる春梢無刺と果梗枝を穂木に用いると、樹冠上部の夏梢に比べ無刺割合は低く、果梗枝でその傾向が強い(図2)。
4. 以上のように、春梢に比べ夏梢、また樹冠下部に比べ上部の方が翌年の刺の発生が少ないことから、枝梢基部より先端部で消失しやすい。このため、刺を有する未結果期の枝梢管理は、強剪定は行わず、間引き剪定を中心に行い、また、芽かきにより枝梢を長く伸長させると刺を少なくすることができる。

#### 普及上の留意点

1. 春梢、夏梢ともに刺のない枝梢は、一樹内での発生本数が少ないため、苗木養成時には、比較的発生本数が多い樹冠上部の刺のない夏梢を穂木に用いる。
2. 初結果前年に刺がある場合では、果実に刺傷が多くなるため、丁寧に除去する必要がある。

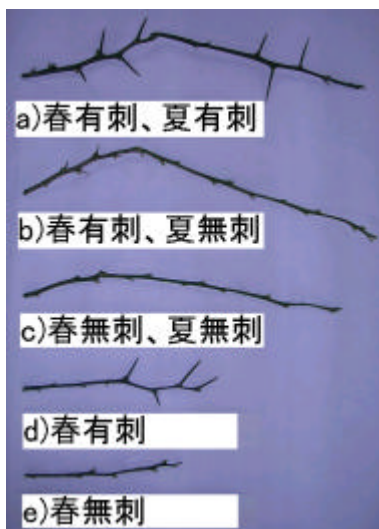


図1 枝梢形態

表1 枝梢形態の違いと翌年枝梢の刺発生

区	刺の有無		調査 枝数	翌年の春梢				翌年の夏梢			
	春梢	夏梢		発生本数	無刺本数	無刺本数 割合	刺発生率	発生本 数	無刺本数	無刺本数 割合	刺発生率
				本	本	%	%	本	本	%	%
a)			7	11.9	6.3	51.9	25.8	10.4	9.7	91.7	0.9
b)		×	8	9.1	3.9	39.5	35.9	7.4	7.0	96.7	0.7
c)	×	×	7	5.6	4.9	79.8	10.4	4.1	4.0	97.8	0.8
d)		-	15	4.5	3.2	70.0	15.8	0.4	0.1	33.3	0.8
e)	×	-	18	1.9	1.8	79.7	10.1	0.1	0.1	100.0	0.0

注) 1. 12年生「肥のあかり」の樹冠上・中部から発生した枝梢を調査し、刺は長さ2mm以上とした。

2. 刺の有無は 〇は有、×は無。

3. 無刺本数割合は、無刺本数/新梢本数 × 100。

4. 刺発生率は、新梢に発生したすべての刺の数/全新梢の節数 × 100。

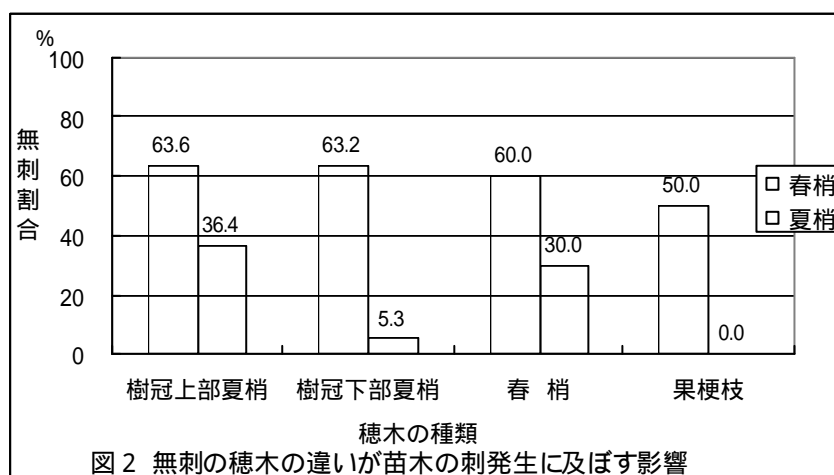


図2 無刺の穂木の違いが苗木の刺発生に及ぼす影響

注) 1. いずれの穂木も12年生「肥のあかり」同一樹より採穂し、各区10~22本の苗木の春・夏・秋梢の無刺本数を調査。

2. 無刺割合は、無刺本数/苗木数 × 100。